

文化学部聴覚文化セミナー/音楽文化論特別講義コンサート

イタリア 150 年の対比。

～初期バロック vs 後期バロック～



F.ジェミニアーニ：タンドルマン
F.A.ボンポルティ：インヴェンツィオーネ第1番
A.L.ヴィヴァルディ：協奏曲RV103
S.ロッシ：ソナタ第8番〈すでに多くの時が〉
D.カステッロ：《現代様式の協奏ソナタ》第2集より第2番
M.ウッチェリーニ：アリア第5番〈ベルガマスカ〉
他 ※曲目は予告なく変更される場合がございます。

日時：7月3日(土)

開演 14:00 (開場 13:30)

場所：神山ホール大ホール

竹内 茂夫 (リコーダー)

岡林 鮎美 (バロック・ヴァイオリン)

岡林 淳子 (チェンバロ)

問い合わせ先：竹内 茂夫 (文化学部・音楽文化論担当)

メールアドレス：atake★cc.kyoto-su.ac.jp (竹内) ※★を@に変更してお送り下さい。

後援：文化学部 ※文化学部事務室へのお問い合わせはお控え下さい。

文化学部聴覚文化セミナー/音楽文化論特別講義
イタリア 150 年の対比 ～初期バロック vs 後期バロック～

本年度、文化学部において計画しております聴覚文化セミナーおよび音楽文化論（木曜 3 時限）の特別講義といたしまして、昨年度に引き続きコンサートを神山ホールにて行います。音楽文化論の受講生のみならず文化学部の皆様や本学の皆様に聴いていただきたいと思います。

本年度は「イタリア 150 年の対比～後期バロック vs 初期バロック～」というテーマを設定しました。イタリアから始まった「バロック音楽」も、初期の 1600 年頃と後期の 1750 年頃では音楽そのものがかなり異なります。楽器については、リコーダーもバロックの初期と後期ではかなり違っており、初期バロックはまだルネサンスからの 1 本削り出しあるいは 2 分割の楽器ですが、後期バロックになると学校で一般に使われるような 3 分割の楽器になり、外観だけでなく内径の構造も変わります。初期のイタリアらしい明るくよく鳴る音と、後期の倍音成分が多い繊細な音の違いを体感していただければと思っています。ヴァイオリンも現代とは違う 17～18 世紀のバロック・ヴァイオリンを使います。

末尾ですが、本特別講義コンサートをいつも後援して下さる文化学部の皆様に感謝申し上げます（文化学部 竹内 茂夫）。

～演奏者（誼讃陣☆薔薇²）プロフィール～

竹内 茂夫（リコーダー）

高校時代から聖歌隊指揮者やバンドリーダーを歴任する傍ら、リコーダーと古楽を独学で学び、オランダ滞在の折にリコーダー製作者・演奏家である斎藤文誉（在 アムステルダム）を通してリコーダーの研鑽を積む。リコーダーで宇治川朝政氏のマスタークラスを、アンサンブルで大塚直哉氏のワークショップを受講。明石市高齢者大学校あかねが丘学園、京田辺シュタイナー学校、十字屋京都三条本店リコーダーフェア、阪神間の教会でのコンサートに招聘され、宝塚音楽回廊にも出演。本学神山交響楽団トレーナー、近江福音自由教会聖歌隊指揮者。

岡林 鮎美（バロック・ヴァイオリン）

大阪音楽大学短期大学部器楽専攻卒業。ピアノ・チェンバロをダミアン・ハラダ氏、ヴァイオリンを田丸尚子、山名公子、室内楽を原田幸一郎の各氏に師事。幼少よりバロック音楽に興味を持ち、大学卒業後バロック・ヴァイオリンを大津睦氏、ルネサンス・初期バロック音楽を古橋潤一氏に師事。バロック・アンサンブルを大塚直哉氏に師事。現在、ソロ、室内楽、オーケストラでモダン、古楽器とともにルネサンスから宗教音楽、現代まで幅広く活動。古楽アンサンブル「アンサンブル 詩音」メンバー。

岡林 淳子（チェンバロ）

大阪芸術大学芸術学部演奏学科ピアノ専攻卒業。ピアノを光永一郎、佐伯光男、宮前勝代各氏に師事。卒業後、チェンバロと通奏低音をダミアン・原田氏に師事。バッハ生誕 300 年記念コンサートを皮切りに、チャペルコンサート、NHK ラジオ、スタジオ録音などに出演。2009 年 10 月フーガの技法チェンバロリサイタルを、12 月にはピアノによるフーガの技法ライブを開催。現在、ソロを中心に初期バロックから前古典派までをレパートリーとしての演奏活動、また通奏低音においても活動している。また、あまり知られていない作曲家の作品も多く紹介している。古楽アンサンブル「アンサンブル 詩音」メンバー。

誼讃陣☆薔薇²（あんさんぶる☆ばらばら）

2009 年に結成した上記の 3 名からなる古楽アンサンブルで、このコンサートにてデビュー。名前とは裏腹に、要所を締めたアンサンブルをモットーとしている。後期バロックの他に初期バロックのレパートリーを特に重視し、今後のアンサンブル活動を計画中。